

春のアブラゼミ 第3日目 接続詞 and, but, or がつくる構造 (その2)

組 ( ) 番号 ( ) 氏名 ( )

Although I know of no scientific grounds to support my theory, I do not believe that a sense of humor is something that a person just is or is not born with, nor that it cannot be developed. My limited study of the mind and its potential suggests to me that we could all develop a sense of humor, if we but tried.

【広島大】

和訳

---

---

---

---

参考

- ・ know of ~ ~ について知っている、理解している、確信がある
- ・ scientific grounds = 科学的根拠
- ・ a sense of humor = ユーモアのセンス
- ・ A is born with B = AはBを生まれつき持っている
- ・ develop = 発達させる、育てる、伸ばす
- ・ limited study = 研究から得られた限られた経験
- ・ suggest to 人 that+文 = ~ということを示唆する・暗示する
- ・ but=just

英語は並び方が命! (5文型)

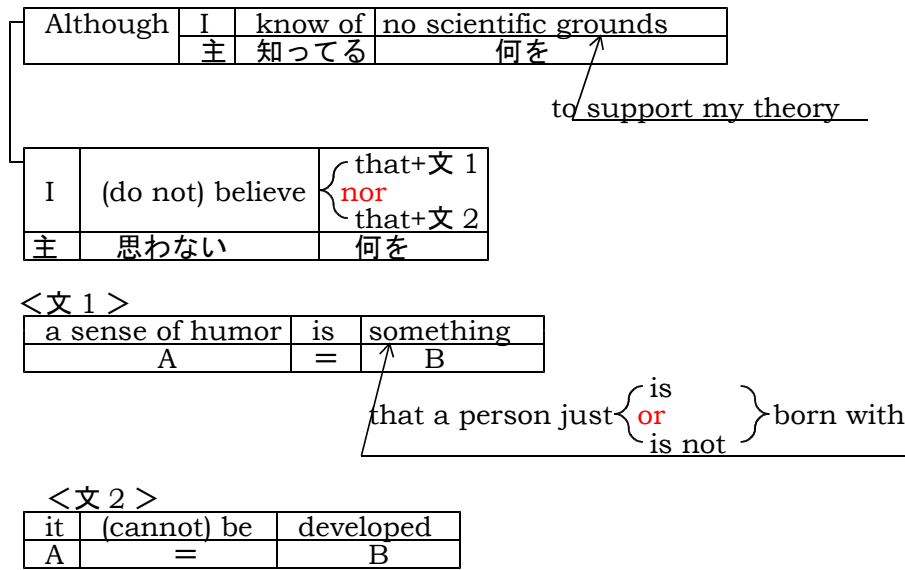
1. 主語+どうした
2. A=B
3. 主語+どうした+何を
4. 主語+どうした+誰に+何を
5. 主語+どうした+何を+どの様に (何に+どの様なことを)

◎英語は語の並び方が命! 自分が読んでいる英文がどの文型で書かれているかをいつも考える。  
◎「英語が読める」とは、動詞を見たらその直後の語順が分かることだ。

英文の読み方

1. 前置詞+名詞は他の部分から切り分けて形容詞か副詞かを考える。
2. and, but, or が出てきたら直後に注目し、直前に同じ形を探す。
3. a, an, the が出てきたら名詞を探す。
4. 助動詞の後ろには動詞がある。be ~ to や ~ to を助動詞考えれば簡単に動詞が見つかる。
5. 文中副詞の後ろには(一般)動詞がある。文中副詞のほとんどが「-ly」の形をしている。
6. 文頭に前置詞+名詞があり、直後に動詞があれば、完全逆転型の倒置。
7. 文頭に否定語があり、直後が疑問文の並び方なら、疑問文型の倒置。
8. 省略は「同型反復」に注目すればすぐ分かる。
9. A of B が出てきたら「BがAする」「BをAする」「Bの持つA」「BというA」「AのB」を特定する。
10. that, -ing, to-が出てきたら「名詞」「形容詞」「副詞」を特定する。-, -ing のコンマ(,)の省略に注意。

<見取図>



この英文和訳のポイントは

- ① 等位接続詞 or や nor が結ぶモノを正確に指摘できるか？
- ② 「～だとは思わない」を「～じゃないと思う」にできるか？

です。

② 英語では、自分の意見が「肯定」か「否定」かを文頭で相手に示唆しなくてはならない。一方日本語ではそれが文末に来る。だから例えば「否定」の意志を相手に伝える場合には、それが文の一番最後まで来ないと分からないことになる。文のできるだけ早い段階で「否定」構造を示すのがよいにこしたことはない。そこで I don't think that ~ を訳出するときに気をつけなくてはならないのは、これを英文の構造通り「～だとは思わない」と訳すよりも「～ではないと思う」と訳した方が自然な日本語になることが多い。否定が文の早い段階で出てくるので、相手にこちらの意図が伝わりやすいからだ。ここでも I don't believe that ~ の訳出にはこのテクニックを使う。

① 前にやった等位接続詞の攻略をここでも使います。

等位接続詞 and, but, or, nor があれば、それを○で囲み、直後の形や品詞に注目し、直前に同じ形や品詞を探せ！そうすればその等位接続詞が結んでいるモノが何と何かが判然とする。

or が出てきたら ○ で囲み、直後の形と品詞に注目すると is が目に入る。直前に目を向けると、やはり is がある。だったらこの or は

{ is  
or  
is not

を結んでいることに思い至る。そして、英文が is で終わるはずがないのだから、前後の英文の構造から推測すると

a person just { is  
or  
is not } born with [it]

であることが分かる。暫定的に目的語 it を補って訳すと「人はそれを生まれつき持っていたり持っていなかったりする」となる。

次に nor が目に入る。やはり ○ で囲み直後に注目すると that+文に気が付くはずだ。すると

{ that+文  
nor  
that+文

の構造が見えてくる。ここで注意すべきは that の働きだ。接続詞が否定文同士をつなぐので **nor** になっていることに注意すれば that の働きは次のように従属接続詞（ことシリーズ）の that を結んでいると分かるはず。

I do **not** believe { that+文  
nor  
that+文

決して関係代名詞の that を結んでいるわけではないということに注意しよう。

something

↑  
that+文  
nor  
that+文 ←これはダメ！

【全訳例】

自分の理論を裏付けるための科学的な根拠などないことに確信を持っているのだが、ユーモアのセンスとは、人が生まれながらにして持っているとか持っていないといった類（たぐい）のものではなく、育てることができるものだと私は思っている。心とその潜在的能力についての私の研究は大したことはないのだが、私たちがやろうと思えば、ユーモアのセンスを育てることができるのが、その研究から分かる。